

パネルディスカッション

科学技術、この20年の邂逅と今後の展望

石田 寛人（金沢学院大学学長）

1. 科学技術はいかなる役割を果たしたか

膨大な知識の体系を整え、人間の未来に展望を与えた。

新しい技術を世に出して、経済の発展に寄与した。

「世界の進歩発展の原動力」

2. 科学技術に何が望まれているか

物質的な充足感と精神的な飢餓感の中で、

科学技術に何を求めるか。

安寧な生活の保障と限りなき前進。

3. 新しい技術はいかに生まれ育つか（イノベーションの構造）

直線的ではない。

スパイラル構造か。

「死の谷」「ダーウインの海」

4. 民と官との役割はいかに分担されるか

民と官の研究開発投資の役割

科学技術行政の果たすべき役割

科学技術振興方策の展開、科学技術的分野の規制、科学技術的分野の事業の実施（大型研究開発、基礎的な研究開発の実施、最先端分野の施設設備の建設と運転、国土整備、気象環境、医療農業など）。複雑であり、多様である。

5. 戦後の行政環境における科学技術はいかなるものであったか

アメリカという巨大な友人の存在

体制の整備と改善、独任制機関と合議制機関の相互補完関係、行政における責任

官庁における事務系職員と技術系職員

官庁内部のことに関する理解の困難性。民間企業にとっても大学人にとっても。

6. 「反知識主義」をいかに受け止めるか。

世界的な傾向。

細かいことは分からなくてよい。バランスある判断が重要で、技術的に詳細な知識は不要。
戦後の文科系理科系の人事制度をいかに克服するか。ポストの流動化。

7. 新しい理科系行政官像をいかに確立するか。

基礎知識と学校教育、キャリアパス、再訓練、急激に変化する要請に対する対応
その最適な組織の模索

8. 長期的な自然観をいかに身につけるか。

新しい技術として大きく伸びるものの育成

21世紀以降をいかに生きていくか。

将来のことはわからない。

①だから長期的な見通しを付けるような努力は効果が薄い。

②だから長期的な見通しが少しでも得られるように努力すべし。

「知の体系」の飛躍的充実 「人類はあまりにも僅かなことしか知らない」

「知の体系」の充実と新技術創成のための活動がいかに魅力に富んでいるか。